**工藤　正一 （くどう・しょういち）**

**１、プロフィール**

夭折の詩人。詩誌「信号灯」を編集発行。反骨の思想と孤高の精神が、異彩の表現を創造したが、時勢との確執をも生んだ。雑誌「改造」の懸賞詩に３編の詩が佳作に選ばれる。

＜生没＞

1907（明治40）年11月９日 ～ 1929（昭和４）年４月28日

＜代表作＞

詩集『ある北方的な風景』

＜青森との関わり＞

南津軽郡石川村（現、弘前市）出身。西津軽郡や北津軽郡下北郡の小学校に勤務。

**２、作家解説**

1907（明治40）年11月９日南津軽郡石川村大字石川105番戸に生まれる。石川小学校卒業の後、弘前市玉成高等小学校へ進み、1923（大正12）年念願の青森師範学校へ入学した。入学してからの読書量の多さは周囲の目を引くに十分だった。しかし、マルクスやオスカ－ワイルド、ニ－チェへと行き着く傾向は、正一の反逆の気骨を養成したが、師範学校という環境から疎まれる思想をも形作った。

1927（昭和２）年３月卒業、西津軽郡鰺ヶ沢町西海小学校へ奉職。「東奥日報」「青森日報」に詩・評論を発表。昭和３年３月、青森五連隊に５か月入営。歩兵伍長。除隊後、北津軽郡沿川村沿川第一小学校勤務。今官一、三上斎太郎らと交友。12月、斎太郎らと詩誌「信号灯」を発行、正一は詩「エピロ－グ」「孤独な燈」を発表。昭和４年１月、「信号灯」第２号に「思想」「兵士」などを、３月の第３号に「月明」「風景」などを発表。

１月下旬、県当局から呼び出され、作品の思想的傾向や行動に対して注意を受ける。４月、下北郡正津川小学校へ転勤となる。20日、急性盲腸炎発病、青森市の県立病院に入院したが、腹膜炎を併発し28日同病院で死亡する。享年23歳の若さであった。

死の直前、雑誌「改造」の懸賞詩に「ある北方的な風景」「この思想」（前掲「思想」を改題）「兵士」３編が佳作として入選していたことを知った。その３編の詩は、同誌６月号に発表され、「改造」編集部は編集後記で哀悼の意を表している。

６月、「信号灯」は工藤正一追悼号を発行。1930（昭和５）年11月、友人らの手で遺稿詩集『ある北方的な風景』が刊行された。

**３、資料紹介**

〇詩集『ある北方的な風景』

図書

1930（昭和５）年11月３日

190mm×133mm

工藤正一の遺稿詩集。没後１年後、工藤紫郎、三上斎太郎ら友人たちによって刊行された。「この思想」「ある北方的な風景」「馬車」「夜更けの詩」など、62編を収める。「内なる反逆の歯を噛む生命の波動を、鋭い意志の燃焼もて刻みつけた」（工藤紫郎の解題）